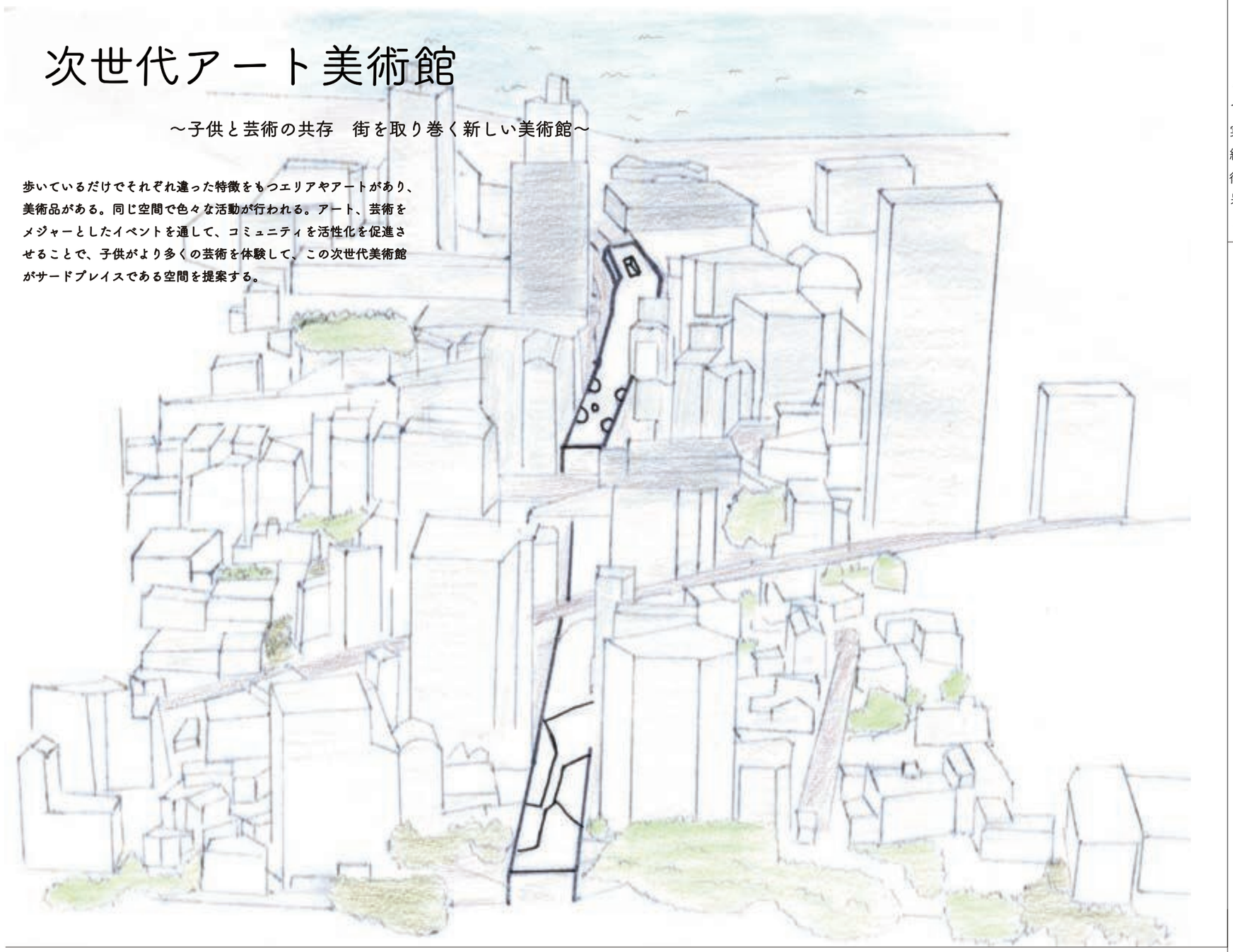
次世代アート美術館

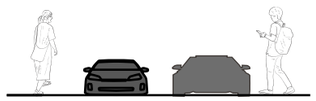
～子供と芸術の共存　街を取り巻く新しい美術館～

歩いているだけでそれぞれ違った特徴をもつエリアやアートがあり、美術品がある。同じ空間で色々な活動が行われる。アート、芸術をメジャーとしたイベントを通して、コミュニティを活性化を促進させることで、子供がより多くの芸術を体験して、この次世代美術館がサードプレイスである空間を提案する。

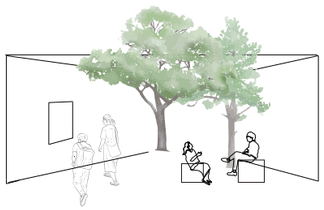


01 プロセス

美術館であると同時に、その街に住む人々の通学路であり、道であり、地域の方の生活活動範囲である。
これまでの道は道路が挟んでおり、お互いが認知しにくい、関わりを持ちにくいという特徴がある。
そこで南北方向の道をなくし、空間繋げることにより、アートや美術を活かした活動や、体験を通し
コミュニティ形成をなり立たせることが次世代美術館を形成する。

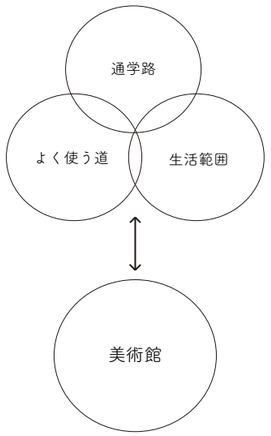


これまでの空間は道幅が狭く主に移動
だけの目的の道



大通り以外の道ををなくしウォーカブル
でお互いが見える空間

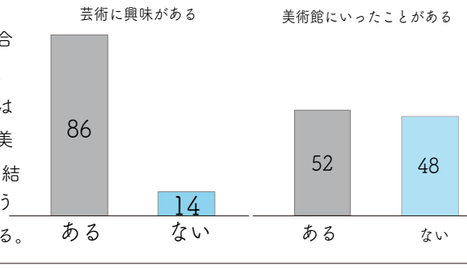
美術館であると同時に様々な生活基盤でもある



地域のコミュニティの活性化や地域以外にも
影響を及ぼす活動や空間が必要

02 美術館と子供の弊害

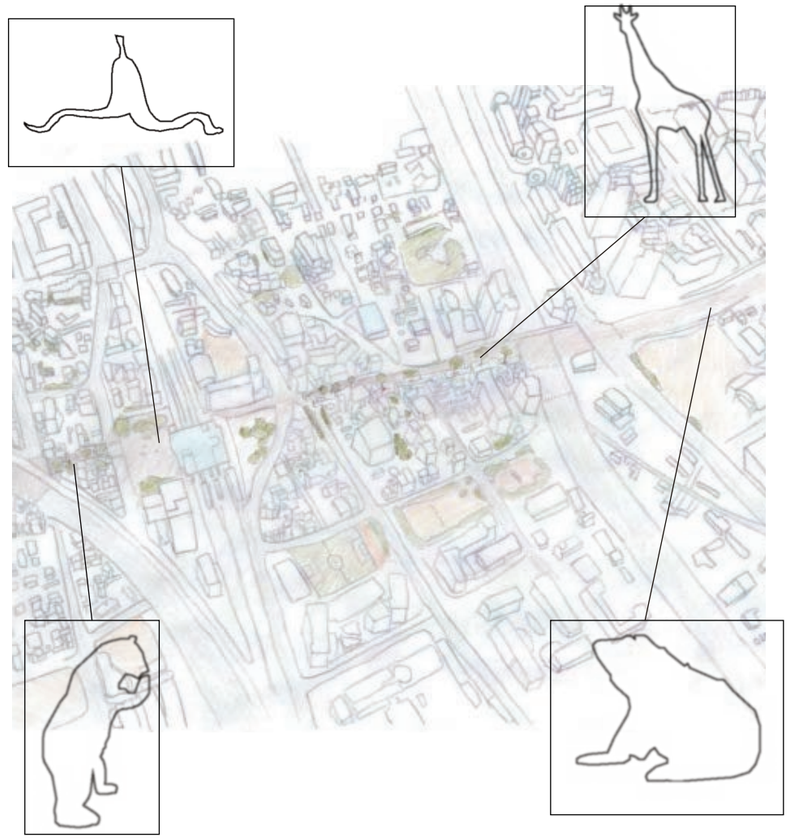
全国小中学生を対象とした芸術への関心と実際に美術館にいったことがあるかの割合である。多くの子供が芸術に興味がある中、実際に美術館にいったことがある子供の数は約半数となっており、芸術に興味があるが美術館に 行けていない子供も多くいるという結果となる。原因として、うるさくしてしまうことや、走り周ってしまうことが挙げられる。



03 より多くの子供が芸術を体感できる仕組み

ミュージアムロードガイドマップの活性化

既存のミュージアムロードマップには主にミュージアムロード付近の山、海に分けてアートの紹介をしている。そこに加え、次世代アート美術館にもダイナミックなアートを取り入れ、実際に乗ったり座ったりすることで、見るだけだなく、触れて、より体感できる空間を計画する。

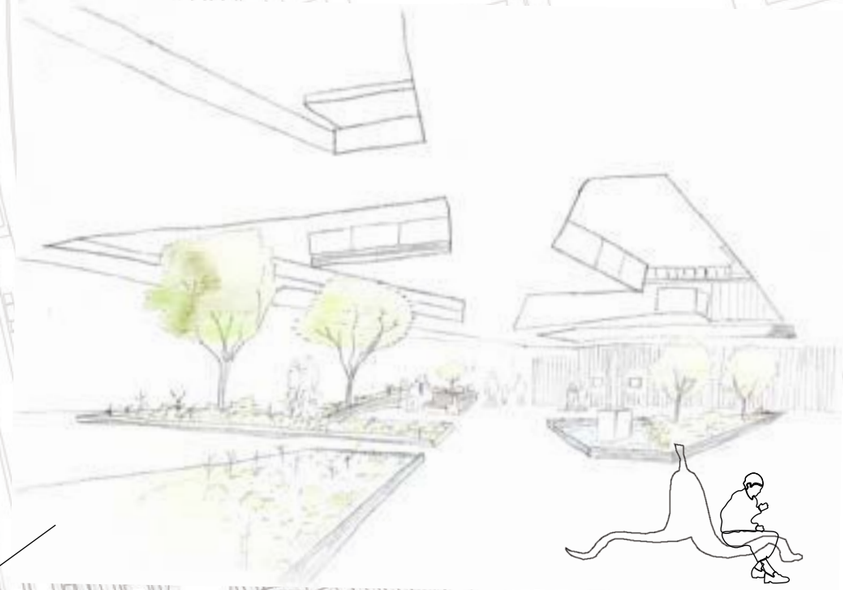


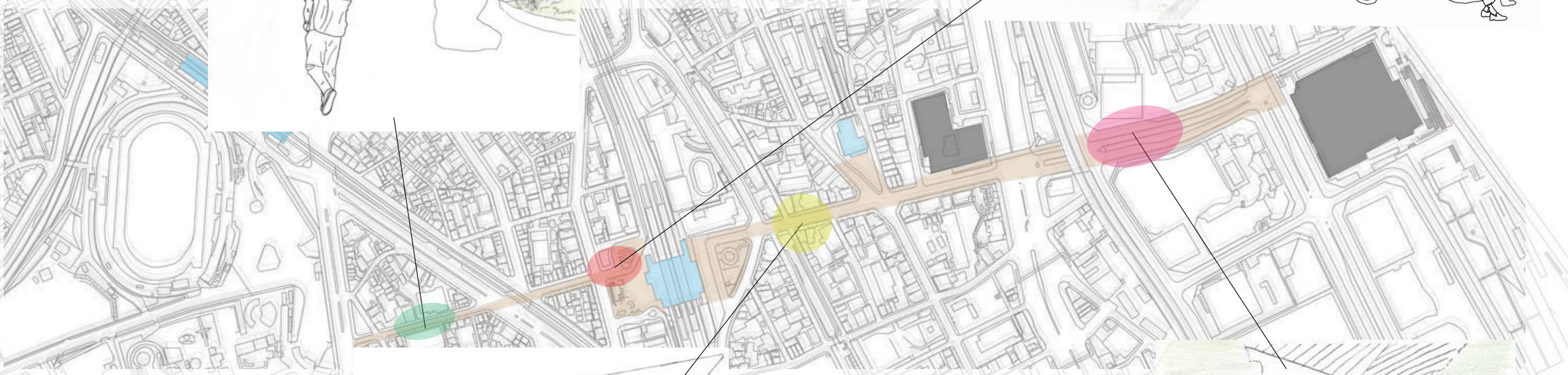
クマエリア

人通りが他のエリアと比べ少ないスペース
主に『歩く』空間としての利用。木で動線
を分け、それぞれが好きな道を選択しながら
歩ける空間。

バナナエリア

灘駅周辺エリア、駅に向かう人、留まる
人、待ち合わせしている人など様々な人たち
が行き交う中で、それぞれが好きなところで
過ごす場所。





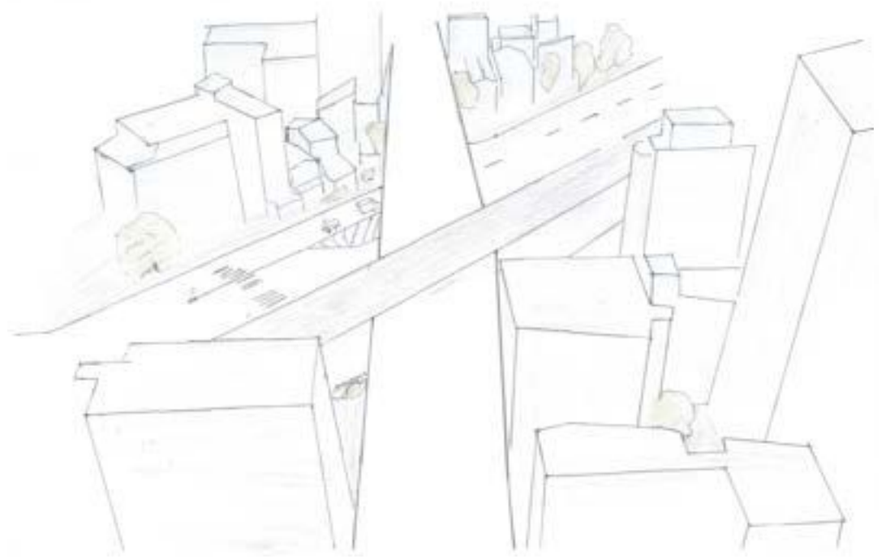
キリンエリア

岩屋駅と灘駅の真ん中に位置する場所。
黄色エリアが一番混雑するため、分岐
できる道を多く取り入れ、子供から大人
までウォーカブルに過ごせる空間となっている。

カエルエリア

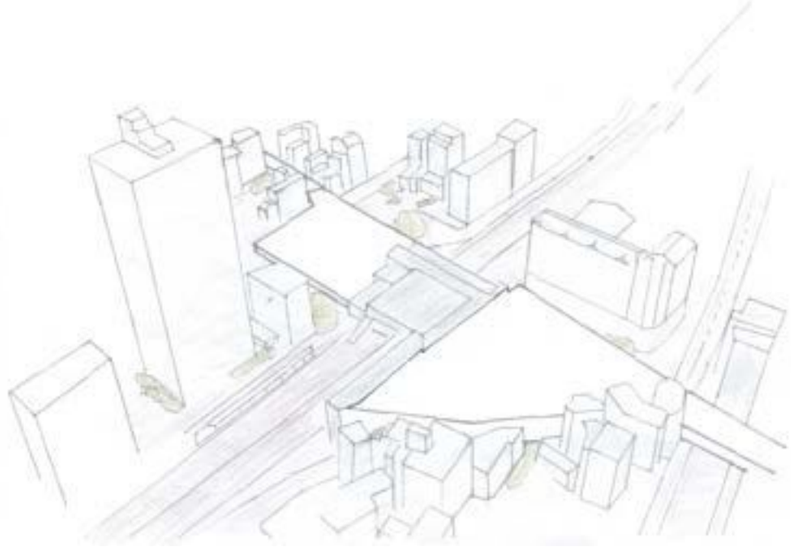
学校や塾が近くにあるため、子供が多く
想定されるエリア、この場所はアート作品
だけでなく、走り回れるエリアなど広い
スペースを活かしてオープンな場所。
ここでは子供向けのイベントなどが開かれる。

山手幹線～阪急神戸線付近



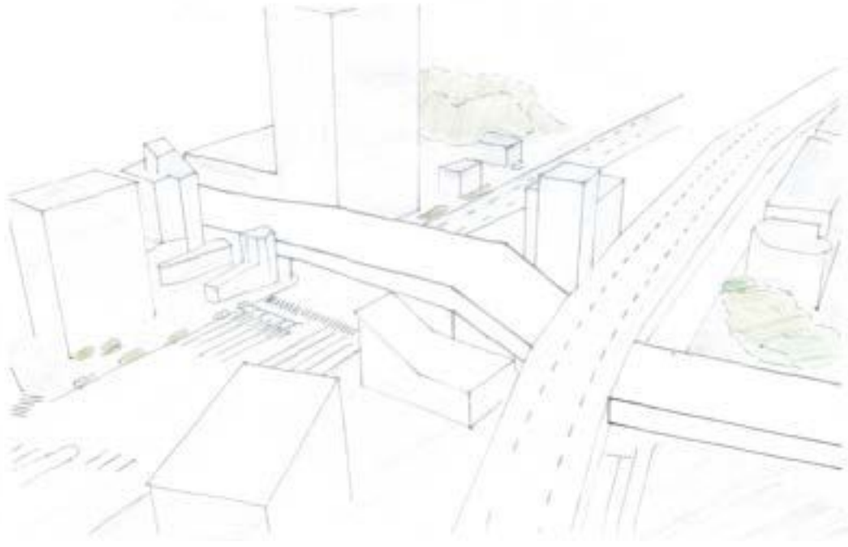
斜めに掛かる高架橋をヴォリュームをそのまま取り込む
ことでよりダイナミックな印象に仕上げる

灘駅付近



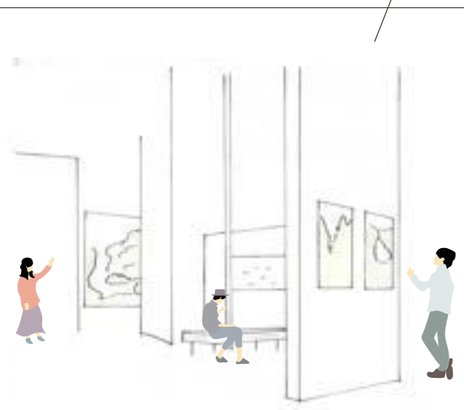
広大なスペースを大胆に使い、スペースを活用し、地域
活動や交流会が行われるスペース。待ち合わせや、休憩できるスペース。

BB プラザ神戸～日出脇浜線

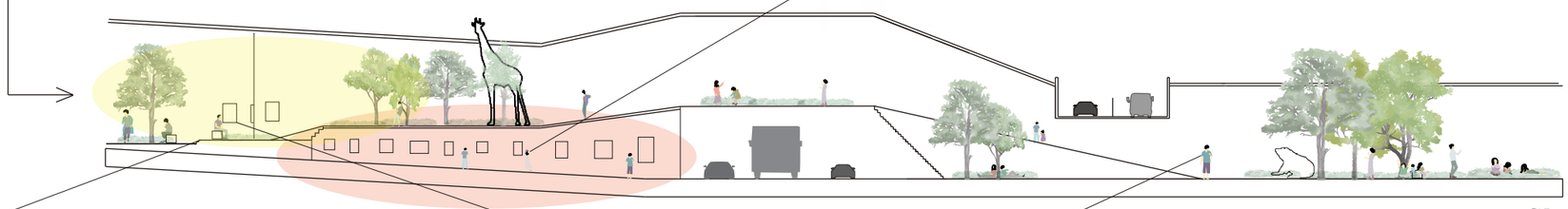


空間を途切れさせないことで美術館がより一体となる

傾斜を活かし、徐々に高さが短くなってゆく
隠れ家のような美術館。この空間は座る場所
やゆったりできるスペースがなく、美術作品に
没頭して閲覧する空間、均質空間に浮いている
ような状態『第三世代美術館』を思わせる空間。



絵画がメインに展示されているスペース
誰でも展示できるスペースになっており
地域や街全体で、芸術の共有をする場所。



壁や斜面で視線を遮ることで進みたくなるような空間を演出